

ファミリーハウスにおける寛ぎを感じるインテリアに関する研究

はじめに

■ 研究の目的と背景

ファミリーハウスとは、患児や患児の家族が病院の近くで安価に食事や睡眠、入浴などの基本的な生活を送れる宿泊施設のことである。

昨今、医療施設の大都市部への集約化が進みつつあり、遠方から通院する患児家族の支援施設の更なる数的・質的充実が求められている。

建築学の分野では、近年子どもの感性に大きく配慮した病院や施設の空間デザインが散見されるようになってきたが、付添看護する親の心境や行動を考えた計画の研究はまだ十分とはいえない。

そこで本研究は、ファミリーハウスの空間に着目し、付添看護する親のために、施設内の寛ぎや癒しを感じる要素を抽出することを目的とする。

■ 歴史

1980年代に「NPO ファミリーハウス」、「NPO サポートハウス親の会」の活動をきっかけとし、全国各地で滞在施設の提供、運営が行われ始めた。

1988年と2001年に国の予算で慢性疾患児家族宿泊施設の整備費用が計上され、32施設と7施設の建設費の補助が確保された。2001年に、日本第1号のドナルド・マクドナルド・ハウスが建設され、企業がスポンサーとなる大型施設がつくられるようになった。

今後日本のファミリーハウスには、社会のニーズの多様化への対応が求められると考える。サービス面としては、家族の心のケアや、子どもの外泊治療の場、託児・育児の機能をもつ場として、ハウスの利用が求められている。運営面では、財政面の安定と社会認知度の更なる向上が求められている。



【図1】ドナルド・マクドナルド・ハウス せたがや外観



【図2】アフラックペアレックスハウス大阪 ラウンジ

■ 既往研究

既往研究を、検索エンジン「Cinii」と「医中誌Web」を使用し、関係する11のキーワード(施設名称6、関連語句5)を組み合わせて検索した。

検索エンジン | Cinii

【表1】既往研究 Cinii

	ファミリーハウス	ファミリーサポートハウス	慢性疾患児家族宿泊施設	ドナルド・マクドナルド・ハウス	ホスピタル・ホスピタリティ・ハウス	患者家族滞在施設
インテリア	0件	0件	0件	0件	0件	0件
暮らし	0件	0件	0件	0件	0件	0件
くつろぎ	0件	0件	0件	0件	0件	0件
病院	3件	0件	3件	3件	0件	2件
空間	2件	0件	2件	0件	0件	0件
ほかのみ	10件	9件	9件	10件	0件	5件

検索エンジン | 医中誌 Web

【表2】既往研究 医中誌

	ファミリーハウス	ファミリーサポートハウス	慢性疾患児家族宿泊施設	ドナルド・マクドナルド・ハウス	ホスピタル・ホスピタリティ・ハウス	患者家族滞在施設
インテリア	0件	0件	0件	0件	0件	0件
暮らし	0件	0件	0件	0件	0件	0件
くつろぎ	0件	0件	0件	0件	0件	0件
病院	4件	1件	3件	1件	0件	2件
空間	1件	0件	0件	0件	0件	0件
ほかのみ	25件	4件	6件	2件	0件	4件

その結果、ファミリーハウスの利用・設備状況に関する研究、今後のハウスの課題について言及している研究などは存在したが、ファミリーハウスのインテリアについて着目し、調査した研究はない、ということが確認できた。

■ 論文構成

1. はじめに

- 1-1 研究の目的と背景
- 1-2 ファミリーハウスの概要
- 1-3 既往研究

2. 日本におけるファミリーハウスの変遷

- 2-1 歴史
- 2-2 今後求められること

3. アンケート調査

- 3-1 調査対象
- 3-2 アンケート調査内容
- 3-3 分析

4. 現地調査

- 4-1 ドナルド・マクドナルド・ハウスなごや
- 4-2 アフラックペアレックスハウス浅草橋
- 4-3 アフラックペアレックスハウス大阪
- 4-4 ドナルド・マクドナルド・ハウスせたがや

5. ファミリーハウスにおける寛ぎを感じるインテリアとは

- 5-1 アンケートからわかったこと
- 5-2 現地調査からわかったこと
- 5-3 まとめ

アンケート調査

■ 調査対象・調査方法

調査対象

本研究の対象は、認定NPOファミリーハウスが調査した全国滞在施設一覧(2013年12月6日現在)に掲載されている94施設とする。

調査方法

94施設に郵送によるアンケート調査を実施した(実施期間:2014年9月29日~2014年10月30日)。設備についてのアンケート項目は、2003年と2005年の法橋尚宏らが書いた論文を参考に作成した。部分的でも比較することにより、ニーズや設備状況の変化を探った。また、ファミリーハウスにおける寛ぎを感じるインテリアについて知るために、患児・家族のための工夫と、利用者から求められる設備・サービスを調査項目とした。

■ 利用状況について

1日の宿泊費は平均1316.3円と安価であるが、施設によっては利用料金に数千円の差が見られた。

39%の施設が患児を受け入れており、子どもの外泊治療の場として、ハウスが利用されていることがわかった。

ソーシャルワーカーのいる施設は21%と低く、家族の心のケアの場として利用されている施設が日本ではまだ少ないことがわかった。

【表3】利用状況

宿泊費	平均1316.3円
患児受け入れ施設	39%(15施設)
成人患者受け入れ施設	16%(6施設)
部屋の利用率	平均59.6%
滞在日数	平均13.4日
最高滞日数	730日
ソーシャルワーカーのいる施設	21%(8施設)
部屋数	平均6.7室

■ 設備について

個室内の設備

トイレ、風呂、テレビ、エアコンはほとんどの施設で設置されていた。大きなニーズの変化は見られなかった。

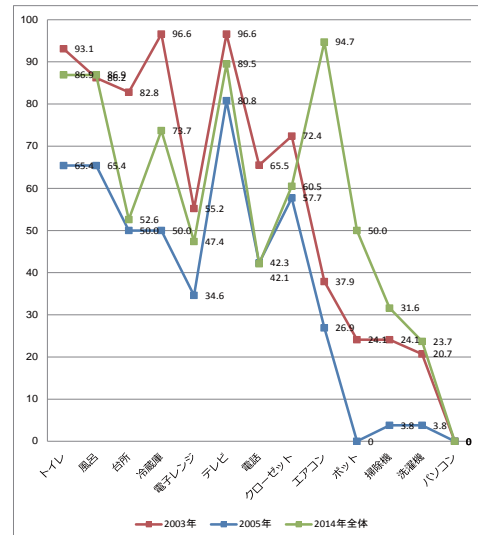
法橋尚宏論文との比較

2003年の論文と比較すると、6項目で設置してある施設数が増加している。

2005年の論文と比較すると、6項目で設置してある施設数が増加している。

個室内の設備の充実度は10年前より上がっていることがわかった。

【表4】個室内設備比較



参考文献

法橋尚宏「全国の「慢性疾患児家族宿泊施設」の設備状況と利用状況の実態調査-家族が利用しやすい施設に向けての問題点と課題について-」家族看護学研究 9(1), 44-49,2003

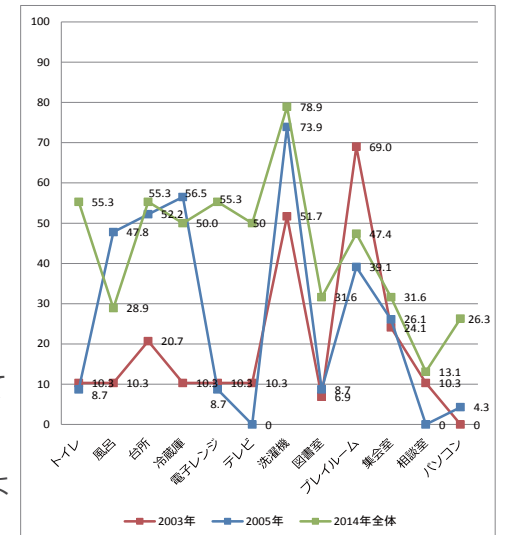
共用部の設備

図書館や集会室など、他の利用者との交流が図れる設備が整えられていた。新たなニーズでは、パソコン室が約27%の施設にあり、両親が仕事や、病気について調べるために利用できる。

法橋尚宏論文との比較

2003年の論文と比較すると5項目で、2005年の論文と比較すると、全ての項目で設置する施設数が増加しており、共用部の設備の充実度は10年前より上がっていることがわかった。

【表5】共用部設備比較



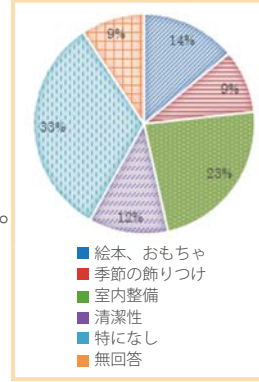
法橋尚宏、加茂沙和香「全国の「ファミリーハウス」の設備状況と利用状況の実態調査-慢性疾患児家族宿泊施設以外のファミリーサポートハウスを対象として-」家族看護学研究 11(1), 34-41,2005

インテリアについて

家族のための工夫

- ①空間を広く感じさせる仕掛け
 - ・間接照明で、天井を高く演出する。
- ②温かみを感じさせる仕掛け
 - ・間接照明で柔らかい雰囲気にする。
 - ・絵や花、手作り・季節の飾り付けを行う。
- ③統一感を与える仕掛け
 - ・中間色で家具、寝具を統一する。
 - ・シンプルなデザインの家具を使用する。

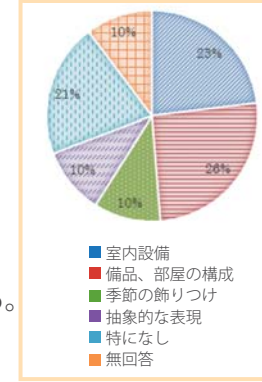
【表6】 家族のための工夫



患児のための工夫

- ①精神的負担を取り除く仕掛け
 - ・季節の飾り付け、行事を行う。
- ②清潔を保つ工夫
 - ・おもちゃの定期的な除菌を行う。
- ③安全を考えたデザイン
 - ・角がとれた家具を使用する。
 - ・建具や、塗料の材料に気をつける。

【表7】 患児のための工夫



まとめ

「自宅のように寛げる場所を提供する」といった抽象的な表現で答える施設もあり、施設運営者にとって、施設での空間づくりに関する取り組みを言語化するのは難しいことと思われた。

現地調査

■ ドナルド・マクドナルド・ハウスなごや

調査日：平成26年7月22日(火)

広々とした図書室にはパソコンもあり、利用者に喜ばれている。

- ①各部屋のベッドカバーをキルトで作成する。
 - 自宅に近い状況を作り出している。
- ②季節の飾り付けを患児と一緒にを行う。
 - 患児がつくったものをハウスに飾り、我が家のような環境を作り出す。



【図3】 外観



【図4】 図書室



【図5】 季節の飾りつけ

■ アフラックペアレンツハウス浅草橋

調査日：平成26年10月4日(土)

寝転んで利用ができ、寛いで過ごせると、和室は洋室より人気が高い。

- ①素材に木を使用する。
 - ハウスを温かい雰囲気にするための工夫。
- ②ハウス内に手作りのもの、おもちゃを置く。
 - 生活感を演出し、空間を柔らかくしている。



【図6】 リビングルーム



【図7】 和室



【図8】 手作りのおもちゃ

■ アフラックペアレンツハウス大阪

調査日：平成26年10月15日(水)

デイユースや、遠方から通院するリハビリ患児と家族も受け入れている。

- ①プライバシーの確保を行う。
 - 自分だけの空間を持つことで、寛ぎを感じられるのではないだろうか。
- ②空がモチーフのヒーリングアートを行う。
 - モザイクアートで作られたフロアサインや、ガラスのオブジェなど、癒しを感じる装飾が至る所にほどこされている。



【図9】 洋室



【図10】 ダイニングルーム



【図11】 ガラスのオブジェ

■ ドナルド・マクドナルド・ハウスせたがや

調査日：平成26年10月29日(水)

ハウスの稼働率は9割と高く、2度の増室もおこなわれている。

- ①リビングは円形にこだわってつくられている。
 - 年月が経つことで出る深みのある木の色と、円形により、落ち着く空間になっている。
- ②喫煙室がある。
 - 喫煙者には、特に寛げる空間になっている。



【図12】 リビングルーム



【図13】 パソコンルーム



【図14】 洋室

まとめ

■ ファミリーハウスにおける寛ぎを感じるインテリアとは

- ①手作りの飾りつけを行う
 - ホテルのような雰囲気をなくし、作り手のぬくもりを感じることができる。
- ②睡眠を快適なものにする
 - ハウスにいる時間の半分以上はベッドで過ごすため、上質なマットレスを使用することで、寛ぎを提供する。
- ③自分のものを置けるスペースを作る
 - 「巣づくり」できる空間を作る。日常使用している物が周りがあるだけで、落ち着くことができる。
- ④隅々まで丁寧に掃除する
 - きれいに掃除されているだけで、誰かが自分のことを気にかけていることが伝わり、心が癒される。
- ⑤素材に木を使う
 - 空間にあたたかな印象を与える。また、長年使用することにより、風合いが出て落ち着いた印象を与える。
- ⑥統一感のあるカラーでコーディネートする
 - カラーが統一されていることで、まとまりを感じ、安定感を得る。
- ⑦プレイルームにはぬいぐるみやおもちゃをたくさん置く
 - ホテルと違い共用スペースに物がたくさん置いてあることで、自宅のように感じることができる。

以上の7項目をファミリーハウスにおける寛ぎを感じる要素として定義する。

